

身近な地域の学習において、主体的に学び続ける児童の育成

- 出会う時間の設定と、単元を通した活動を通して -



特別研修員 社会 都筑 悠 (小学校教諭)

児童の実態

与えられた課題に取り組むことはできるが、学習内容を自分の生活と結び付けて(自分事として)捉え、興味関心をもち、追究することが難しい様子が見られる。

教師の願い

「なぜだろう」「もっと知りたい」と感じ、学習内容を自分の生活と結び付けながら主体的に学習を進めていく力を身に付けてもらいたい。

手立て 1

【出会う時間】の設定

自分の生活と学習内容との関連に気付くことができるように、自分の生活と関連する資料を提示したり、その資料を活用したりする活動を行う時間を設ける。

手立て 2

【単元を通した活動】の工夫

追究が継続できるように、出会う時間で扱った資料を活用した学習活動を単元を通して繰り返し実施する。

成果

学習内容を自分の生活と結び付けて(自分事として)捉えることができるようになったことで、身近な地域に対する興味や関心を高め、学習を進める中で生まれた気付きや疑問を解決しようとする姿が見られるようになった。

課題

児童が用意した写真の中には、コンビニエンスストアとの差異やスーパーマーケットにおける工夫が十分に捉えにくいものがあった。その結果、学習内容と日常生活との関連付けが困難となった。

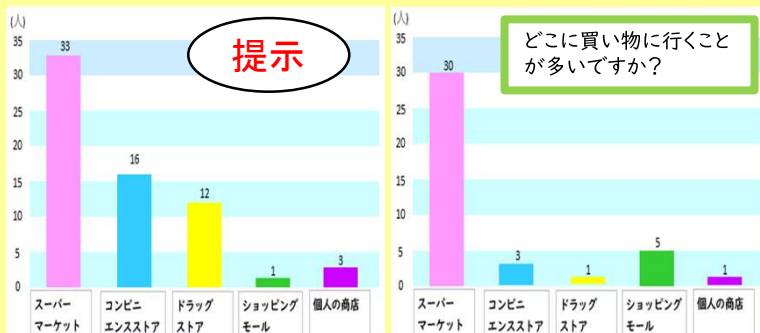
単元「はたらく人とわたしたちの暮らし 店ではたらく人」(第3学年)

手立て① 出会う時間の設定

単元の導入

自分の生活と学びを結び付ける時間の設定 <第1時>

保護者(左)子供たち(右)への買い物アンケートの結果を提示し、気付きや疑問を集約する。



ぼくの家らしさは、季節の食材をたくさん買っていることだと思う。どうして、たくさん買ってくるのだろう?



買い物の写真から「自分の家らしさ」を発見する。



活用

保護者の回答結果を提示したり、自分の家の買い物の写真を活用したりすることで、学習内容が家庭生活と関りがあることを実感することができる。

手立て② 単元を通した活動の工夫

単元の追究

買い物の写真を活用した学習活動の工夫

<第2時>

「スーパーマーケットとコンビニエンスストアのちがいを」買い物の写真を活用し比較する



活用

スーパーマーケットとコンビニエンスストアで、買う物がどうして違うのだろう?



<第7時>

「スーパーマーケットの工夫」を自分の家の買い物の写真から見付ける



① ② ③
自分の家で使いやすいサイズにカットしてあるんだ。

自分の家の買い物の写真を活用した学習活動を単元を通して繰り返し行うことで、追究しようとする姿勢を継続することができる。

身近な地域の学習において、主体的に学び続ける児童